

シングルユース連続遠心機 UFMini®

細胞およびデブリス分離用。シングルユースタイプの連続遠心機。

特徴

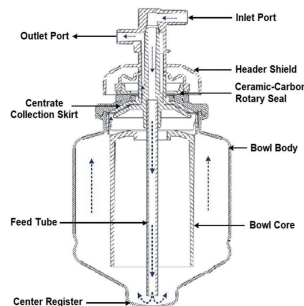
- 接液部がすべてシングルユースのため C/SIP が不要。
- シングルユースモジュールはガンマ線滅菌済、USP クラス VI 適合。
- 低剪断分離のため細胞へのダメージが小さい。
- 高い細胞分離能（例：CHO 細胞 99% 以上）。
- フルオート運転。

用途

- 培養液中の細胞・デブリス除去、上清回収
- デブスフィルターの負担軽減
- 細胞回収
- 細胞洗浄、バッファー置換

仕様

型式：UFMini® 遠心力：最大 4000G
 処理能力：29 ~ 1000mL/min
 細胞保持容量：300mL
 サイズ：W690 x D560 x H380 mm
 重量：約 40kg 電源：AC100V、7A



UFMini® シングルユースモジュール 構造図



UFMini®

藤嶋昭 東京大学特別荣誉教授・東京理科大学荣誉教授 監修

発明・発見
シリーズ
009

伝染病は特定の微生物が体内に侵入することによって発症する

007で紹介したパスツールは、1種類の微生物だけを純粋培養できず、液体培地で多種類の微生物を同時に培養してしまったので、病気を引き起こす病原菌を特定するに至らなかった。ロベルト・コッホ (1843-1910) は、肉汁等の栄養素をゼラチンで固化した固形培地上に、1個の微生物を増殖させてコロニーを作らせることで微生物を単離し、純粋培養する画期的な手法を開発し、病気を引き起こす微生物を特定する手法を開発した。指導者だったヘンレの「伝染病は特定の微生物が体内に侵入することによって発症する」という仮説を立証して、下記コッホの原則を発表した。

1. 特定の病気には特定の微生物が検出される。
2. その微生物を分離・培養することができる。
3. その微生物を感受性のある動物に感染させて同じ病気を起こさせることができる。
4. その病気になった動物から同じ微生物が検出される。

今では微生物だけが病気を引き起こす原因ではないことが分かっているが、微生物由来の伝染病の指標となっている。炭疽菌の純粋培養に成功し、主に家畜で流行した炭疽病の病原体であることを証明した他、世界中でまん延していた結核菌、コレラ菌を発見し、死の病だった結核に関する研究で1905年ノーベル生理学・医学賞を受賞している。しかし、結核の治療には抗生物質の出現を待たなければならない。北里柴三郎もコッホに師事した。

参考文献： <https://ja.wikipedia.org/wiki/コッホの原則>



開発・製造

ABLE エイブル株式会社

www.able-biott.co.jp

・カラー版配信
・お問い合わせ
フォーム



お問い合わせは、株式会社バイオットまで

販売元

Biott 株式会社バイオット

本社 〒162-0812 東京都新宿区西五軒町 6-10
 TEL : 03-3260-0415 (代) FAX : 03-3260-0407

大阪営業所 〒532-0003 大阪府大阪市淀川区宮原 5-1-3
 TEL : 06-6398-1260 FAX : 06-6398-1261